

まちなみ通信 第11号



「朝日まちなみプラン」を住民の皆さんにより身近に感じていただくため、プランに基づく町や地域の皆さんの動きを≪まちなみ通信≫として紹介します。

令和元年度 第2回 朝日まちなみプラン検討ワークショップを開催しました！

朝日町では、「朝日まちなみプラン」に基づき、東海道を軸とした「歩き集えるくらしやすいまちづくり」を進めていくためのワークショップを開催しています。今年度は、「家屋等修景の基準」「ゴミ置場修景」をテーマに、どのようなデザインのまちなみにしていくかを検討する「まちなみ景観ワークショップ」と、東海道にちなんだイベントや継続的な地域活動の企画を検討する「イベント・地域活動ワークショップ」を、公募により決定した13名のメンバーで行っています。今回は、7月13日に行われたワークショップの様子を紹介します。

- 開催日時：7月13日（土） 10時から12時30分
- 開催場所：朝日町役場大会議室および東海道沿いの各地

“現地を確認しよう！”をテーマに、まち歩きを行いました。

「まちなみ・景観ワークショップ」では、朝日らしい建物、既存ゴミ箱の現状などを確認し、道路沿いの緑化、建物等のルールづくり、空き家の活用、ゴミ置場のあり方等について意見が出されました。

統一感の演出	道路沿いの緑化	植栽により町並みの統一感を図る
		東海道沿いのお勧めの緑化事例を紹介する
		道路沿いの塀にプランターを設置するための金具を配ってはどうか
		東海道沿いの一部区間を決めて、町や地元で鉢植えを行う。その場合には、置かせてもらう許可をその家からもらうとともに、鉢の面倒を見るボランティアを集めることが必要。成功すれば鉢植えの範囲を広げていく
	建物や垣・柵・塀のルール化	長期の取り組みとして、建替えに際し、道路に面した部分を共用スペースとして提供してもらう条例を設けて、そのスペースを植栽や歩道の整備に充てることが考えられる
空屋を使ってモデルケースづくり	建物や垣・柵・塀のルール化	東海道沿いに相応しい建物の外壁、塀などについて推奨プランを紹介する
		東海道沿いの車庫のシャッターについても景観の配慮が必要
朝日らしい建物の認定	空屋を使ってモデルケースづくり	空家を旅する人の休憩、トイレに使えるように一部を直し開放する。ここは、朝日町の住民も使えるようにする。また、朝日町の歴史的に価値のあるもの、紹介したいものを展示する
		空家の管理する人をボランティアで集める
古い建物の特長をPR	朝日らしい建物の認定	東海道沿いから見える建物の外壁、塀については、板張りで改修または新築する場合に補助金を出し、インセンティブを付与することが考えられる
		江戸時代、明治時代から残っているような建物は、東海道沿いにはないようにみられる。関宿や中山道の奈良井宿のようにはできないので、無理はしない方がいい
ごみ置き場	古い建物の特長をPR	歴史的趣のある建物の外観は、黒が多い
		50年以上の建物の補修のルール作りは、住民から賛成を得られるように思えない。必要なものは写真で記録しておく。（空家を展示に使用できるようになるならそこに写真を展示）
		常設ごみ置き場については、下側1.0mは中が見えない構造にする
		常設ごみ置き場で、歩行者の通行の妨げになっている箇所については、設置場所を検討する
その他	ごみ置き場	一般ごみについても、折り畳み式の収集ボックスに統一した方がよい。また、平常時の収納方法もルール（電柱の裏など）を決めた方がよい
		ごみ置き場はきちんと整理されていれば、新旧はあまり気にならない
		カーブミラーを茶色にする
	その他	歩いてみて、縄生地区は緑が多く、小向地区になると緑が少なく感じた
		路側帯を着色することは賛成。また、側溝にあるグレーチング蓋は、ウォーキングポールの先が入り込まない溝の寸法にする